

# 上場企業IRセミナー in 大阪



**第一稀元素化学工業株式会社**

2026年6月21日



- I. 当社紹介
- II. 当社の強み
- III. 成長戦略
- IV. 業績予想
- V. 株主還元方針
- VI. APPENDIX



<第一稀元素 マスコットキャラクター>

ジルコくん

## DKKのココに注目！

1

主力製品の世界シェア

40%\*

グローバルニッチトップ企業100選  
認定(経産省)

2

AI、エネルギー、安全保障  
などの注目度の高い

成長領域

でも活躍

3

DOEを採用し

安定配当

を実現

# I. 当社紹介

---

# 会社概要

当社のホームページは[こちら](#)から



会社名	第一稀元素化学工業株式会社
設立	1956年5月21日
資本金	7億8,710万円
代表	國部 洋
従業員	709名 (連結) (2026年3月31日)
事業の目的	化学工業製品の製造・販売
本社	大阪市中央区北浜4-4-9

# 経営理念・ビジョン

## 社名の由来

稀な元素を扱う企業の中で一番であり続けたいという思いが込められている



## 経営理念

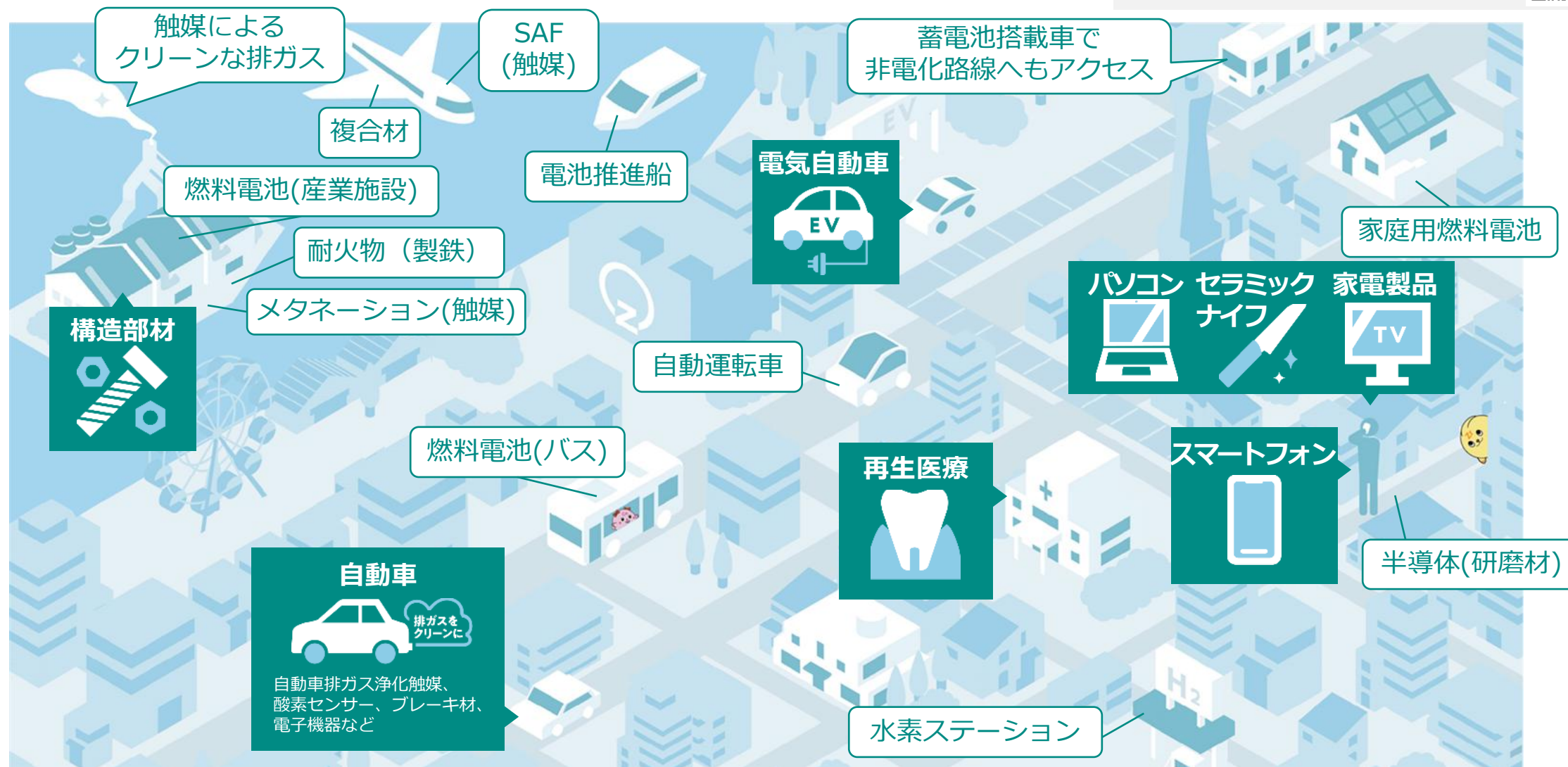
世に価値あるものを供給し続けるには  
価値ある人生を送るものの手によらねばならぬ  
価値ある人生を送るためには  
その大半を過ごす職場を価値あるものに  
創り上げていかねばなるまい

## ビジョン

稀な元素とともに、「100年企業」へ

# 私たちの身近にある、ジルコニウム

すぐわかる第一稀元素は[こちら](#)から



## II. 当社の強み

---

# 数字で見るDKK

## 売上高

**357** 億円

前期比 6.3%増

## 営業利益

**34** 億円

前期比 52.4%増

※2026年3月期



## 自動車排ガス浄化 触媒の世界シェア

約**40%**



※当社推定

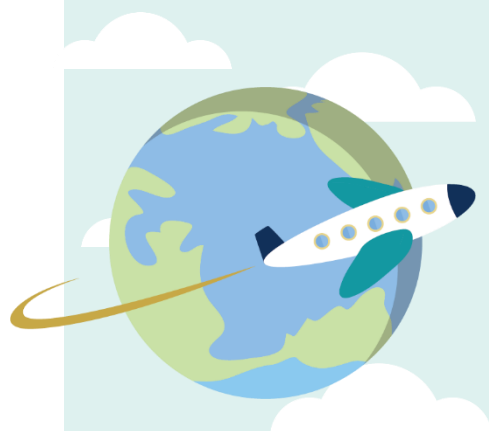
## 海外拠点数

**6** 社

## 海外売上高比率

**56%**

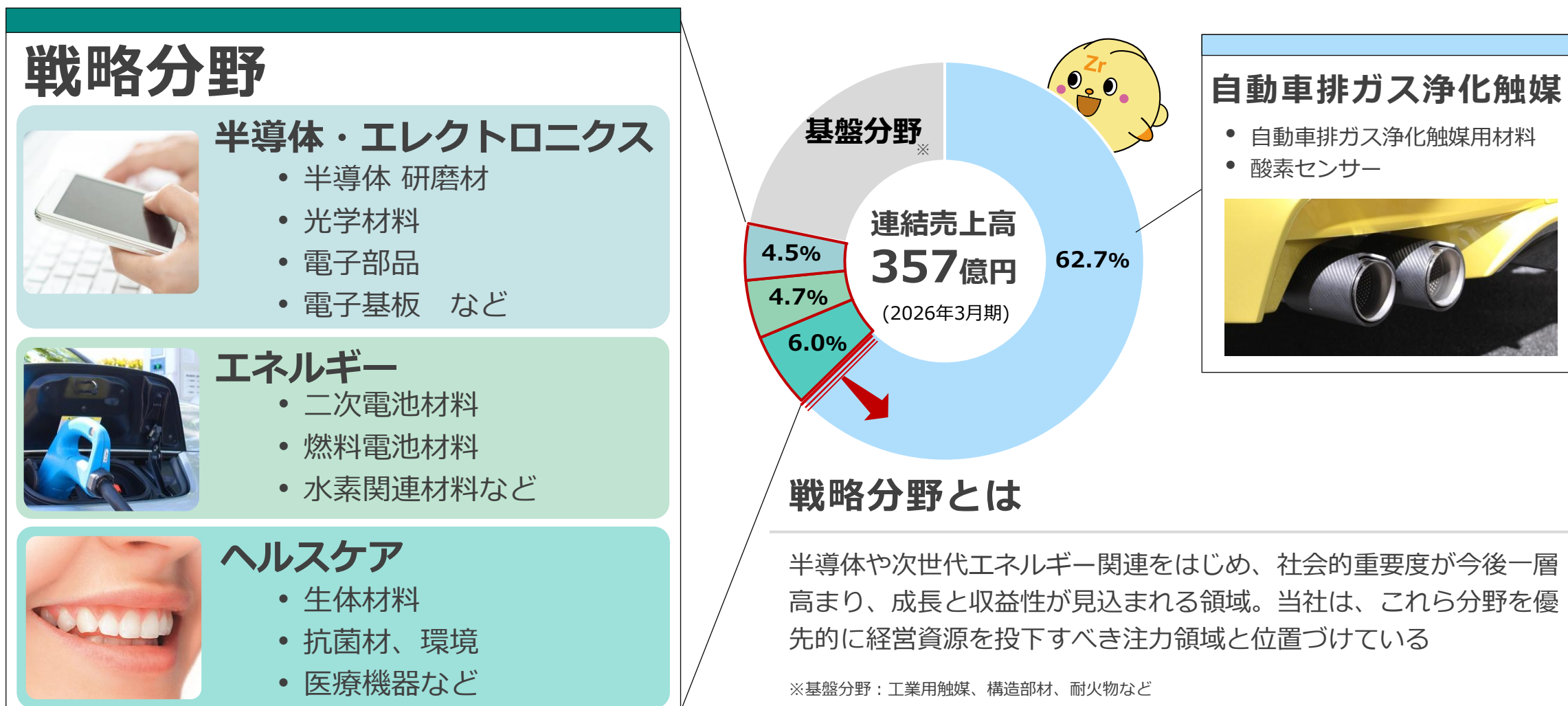
※2026年3月期



グローバルニッチ  
トップ企業100選認定  
(経産省)

# 売上構成と戦略分野の位置づけ

✓戦略分野である**半導体・エレクトロニクス**、**エネルギー**、**ヘルスケア**の売上成長に注力する



## 当社の3つの強み

### 3つの強みにより、世界唯一のバリューチェーンを構築

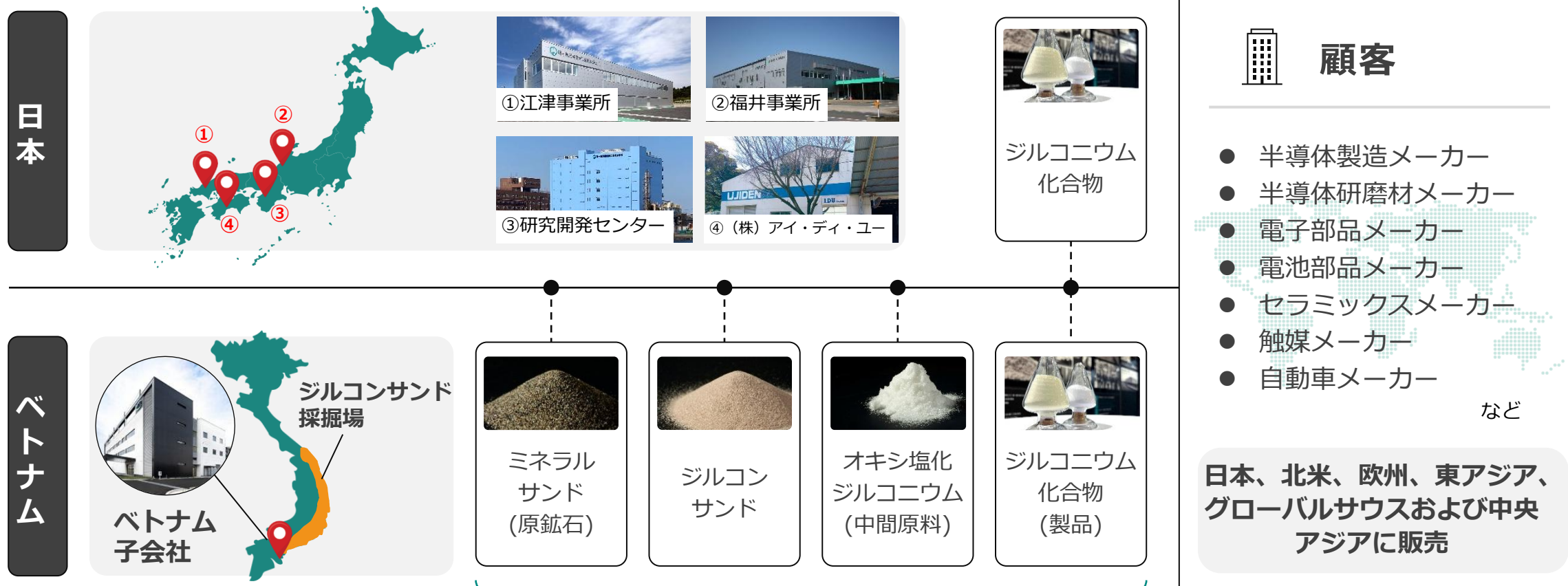
① ベトナム子会社を活かしたサプライチェーン

② 産官学連携による顧客ネットワーク

③ 高い研究開発力・生産技術力

# 当社が構築したサプライチェーン

- ✓ 鉱石から製品までを一気通貫で手掛ける唯一無二のサプライチェーンを構築
- ✓ 独自のサプライチェーンを起点とし、外部環境影響を受けにくい強固なバリューチェーンを確立



ベトナム国内で完結

# ベトナム子会社

ベトナム子会社のホームページは[こちら](#)から



会社名	VIETNAM RARE ELEMENTS CHEMICAL JOINT STOCK COMPANY
設立	2012年3月
資本金	808,618百万 ベトナムドン
出資者	第一稀元素化学工業株式会社:87.631% JBIC ※: 12.367%
代表	児玉 圭太
従業員数	228名 (2025年12月31日)
事業の目的	オキシ塩化ジルコニウムの生産・販売
住所	Lot C1, Phu My 3 Specialized Industrial Park, Tan Phuoc Ward, Ho Chi Minh City, Vietnam



※株式会社 国際協力銀行 (Japan Bank for International Cooperation)

# 地政学リスクとDKKの優位性

- ✓ 中国は長年の精錬ノウハウと安価な設備・資源を背景に、ジルコニア精錬のサプライチェーンを支配
- ✓ 当社は地政学リスクに左右されない複線型の材料供給体制構築のためにベトナム事業を開始

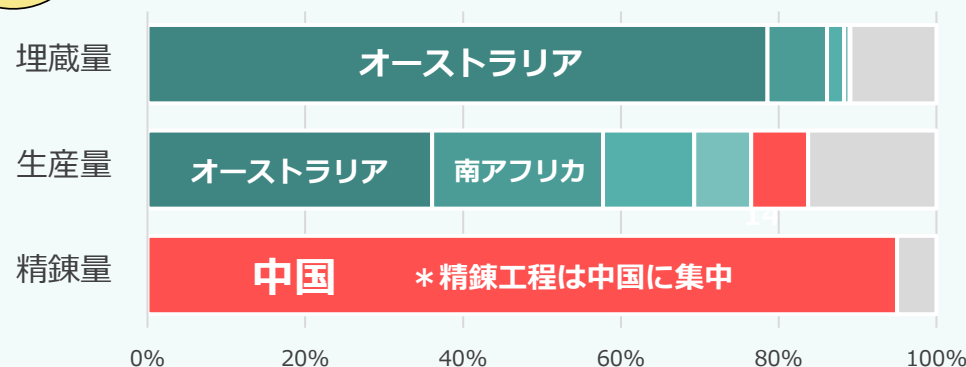
## 世界的な課題

### 中国への過度な依存

ジルコニウム鉱石の埋蔵・生産は分散している一方、精錬工程は中国に集中しており、供給のボトルネックとなっている



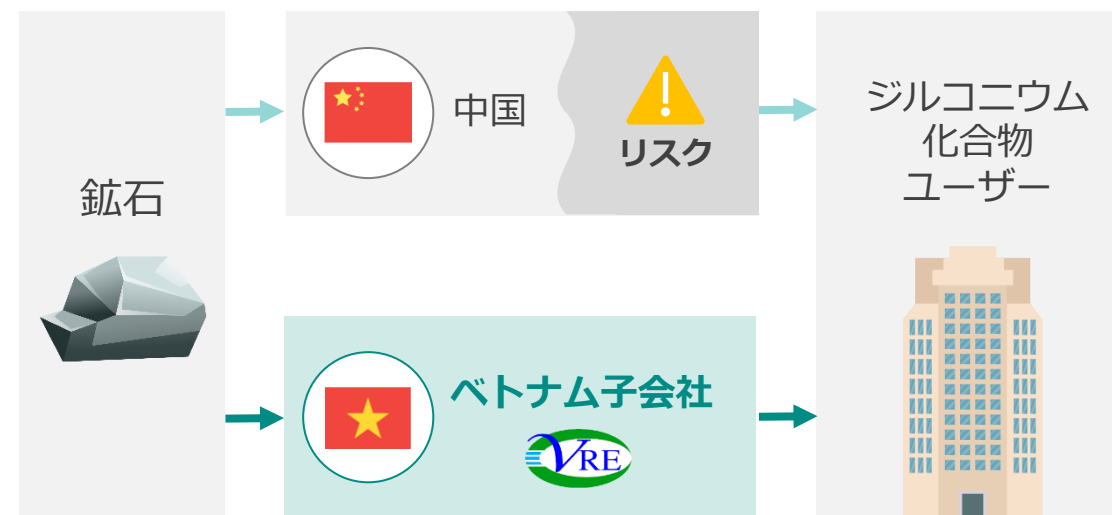
ジルコニウム鉱石の埋蔵・生産・精錬(2024年)



## 当社独自の解決策

### ベトナム経由のサプライチェーン

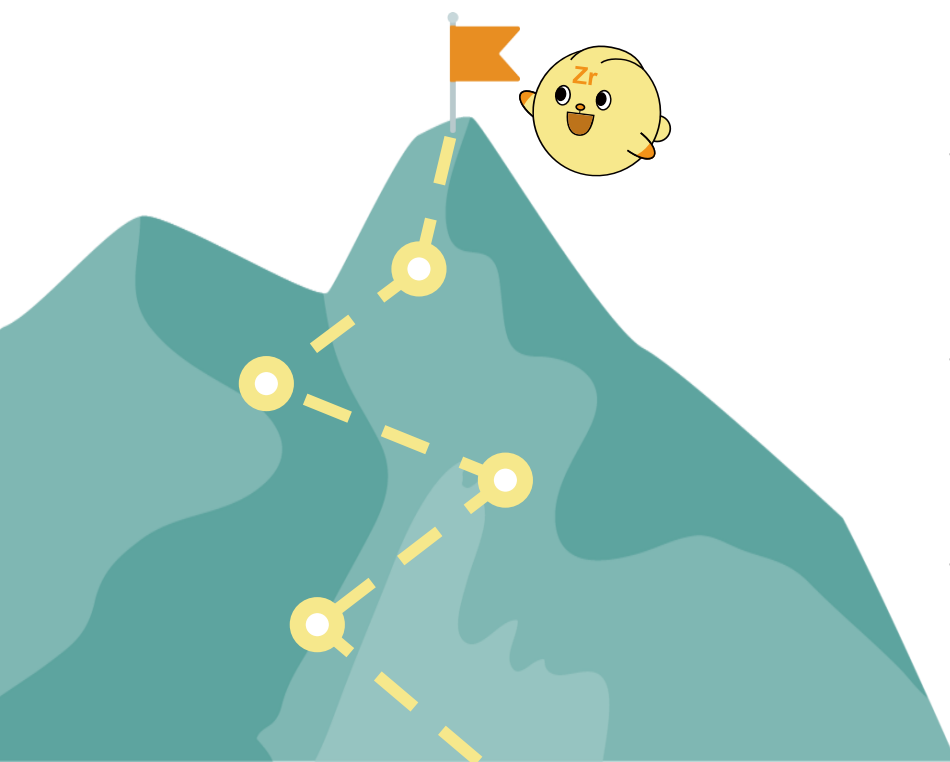
複数国の中間体調達ソースを持つ体制は、世界的にも希少な強み



安定供給こそが最大の付加価値

# 他社が容易には越えられない参入障壁

- ✓ベトナムでのオキシ塩化ジルコニウムの商業生産は、数多くの障壁を乗り越えた末に実現
- ✓環境規制への対応や政府との信頼関係構築は、一朝一夕では成し得ず、資金力のみでは解決できない本質的な参入障壁となり得る



## 1 拠点選定の壁

ジルコニウム鉱石の採掘可能な鉱山へのアクセス、物流網の整備、現地人材の確保など、多角的な観点からの最適拠点選定

## 2 環境基準の壁

自然起源放射性物質（NORM※）への対応をはじめ、廃棄物、排水等基準の高い環境規制に適合した仕組みの構築

## 3 生産体制・価格の壁

高純度化に向けた不純物除去技術の難度に加え、減価償却を終えた且つ大規模生産可能な中国とのコスト競争への対応

## 4 関係構築の壁

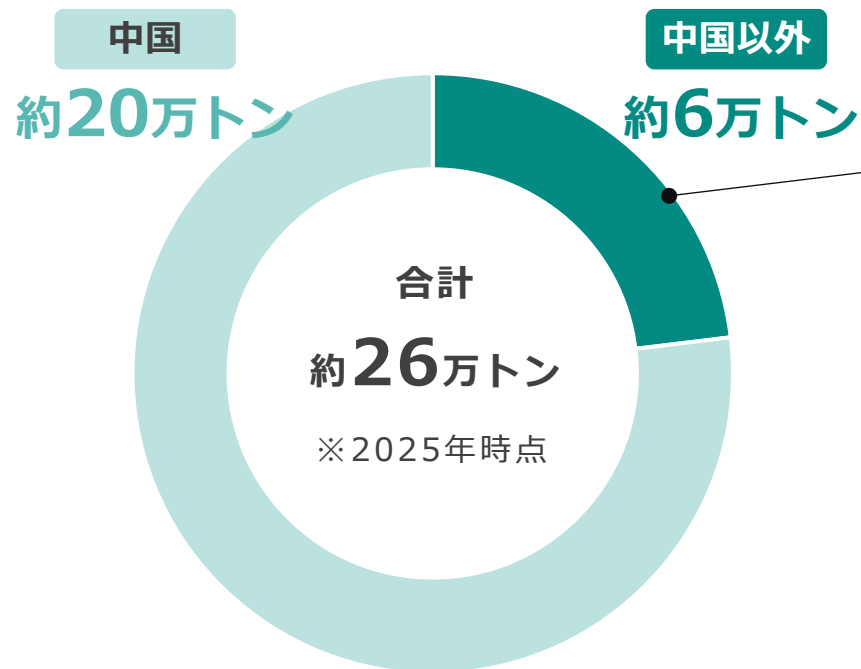
現地政府およびキーパーソンとの長期的な信頼関係の醸成

※NORM : Naturally Occurring Radioactive Materials

## ベトナム事業のポテンシャル

- ✓世界のオキシ塩化ジルコニウムの需要は年間約26万トンに達しており、うち中国以外での使用量は約6万トンを占める
- ✓その大部分は中国産原料に依存しており、ベトナム拠点を有する当社にとって大きな事業拡大の余地がある

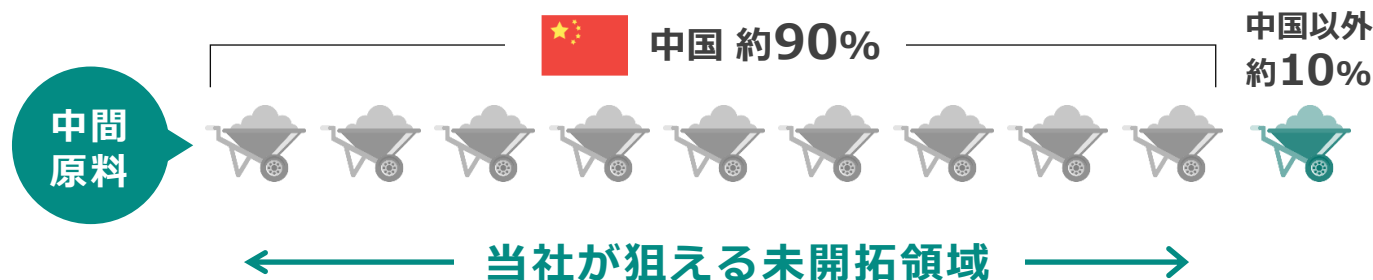
### 世界のオキシ塩化ジルコニウムの使用量



中国以外での需要についても、  
その**約90%**が**中国から供給された原料**を使用している



ベトナム拠点を有する当社であれば  
中国以外で使用されている**約6万トン**への事業拡大の余地あり



※Asian metal等を基に当社作成



# III. 成長戦略

---

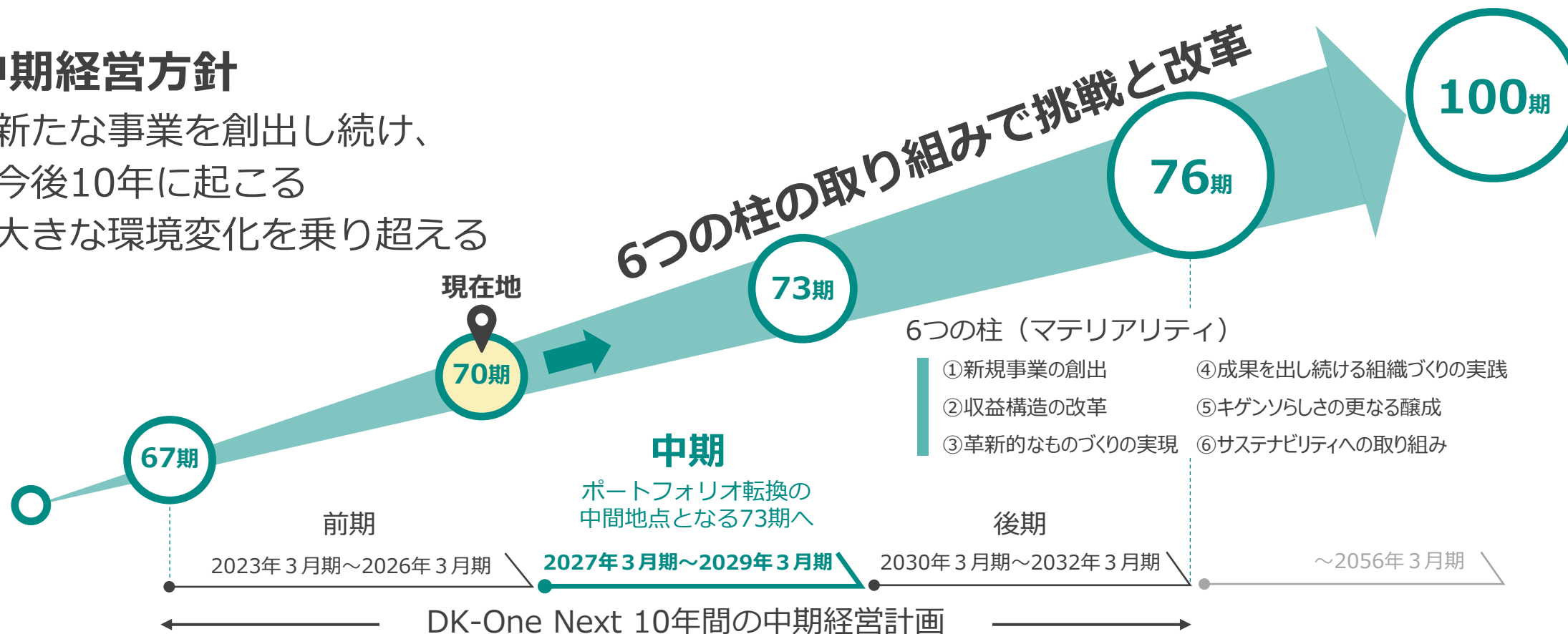
# 「DK-One Next」の現在地

## ビジョン

■ 稀な元素とともに、「100年企業」へ

## 中期経営方針

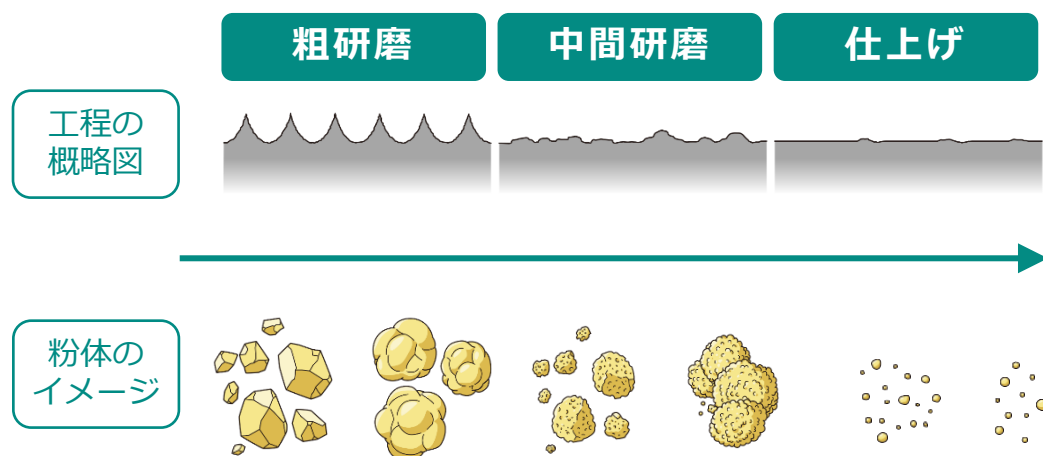
■ 新たな事業を創出し続け、  
今後10年に起こる  
大きな環境変化を乗り越える



# 半導体・エレクトロニクス分野

- ✓ 当社のジルコニウム化合物は研磨材として注目されている
- ✓ その他、スマートフォンをはじめとしたセラミックスコンデンサ用途としても使用されている

## 当社製品の用途① 研磨材としての活用



- 半導体の製造では基板ウェハの表面をナノレベルで研磨・平滑化する工程が必要
- 当社のジルコニウム化合物は、粉体の粒子サイズや形状を制御することで、基板ウェハ表面の状態や各工程に応じた研磨性能を発揮

## 当社製品の用途② セラミックスコンデンサとしての活用



- ジルコニウム化合物は優れた電気特性を持つ材料
- セラミックスコンデンサでは、電気を蓄えたり放出したりする機能を安定化する材料として用いられ、スマートフォンやパソコン、家電製品など幅広い電子機器に搭載されている

# 半導体・エレクトロニクス分野の将来性

- ✓ 研磨材やセラミックコンデンサの需要は今後も拡大する見込み
- ✓ 半導体研磨材市場の成長率は年28%と推定されており、2032年には約100億円に達する

## 取り巻く事業環境と機会

### ① AI・データセンター需要の爆発的増加

生成AIやクラウド拡大により半導体需要は構造的に増加し、製造工程全体の能力増強が進む。結果として、研磨材など消耗材の需要が高まる見込み

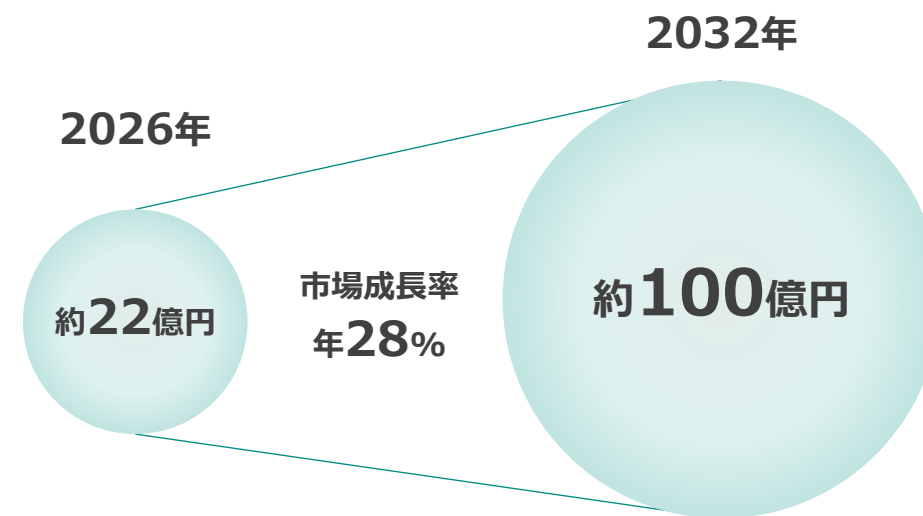
### ② 半導体の高度化・微細化

先端半導体では構造の多層化・微細化が進み、表面平坦化の重要性が高まった。高精度・低欠陥を実現するため、ジルコニウム系研磨材など高性能材料の需要が拡大

### ③ 先端セラミックスへのシフト

エレクトロニクス分野において耐熱・耐腐食・高強度といった特性を持つ先進セラミックスの採用が拡大。ジルコニウム化合物など高純度材料への需要も中長期的に高まる見込み

## 半導体研磨材の市場規模

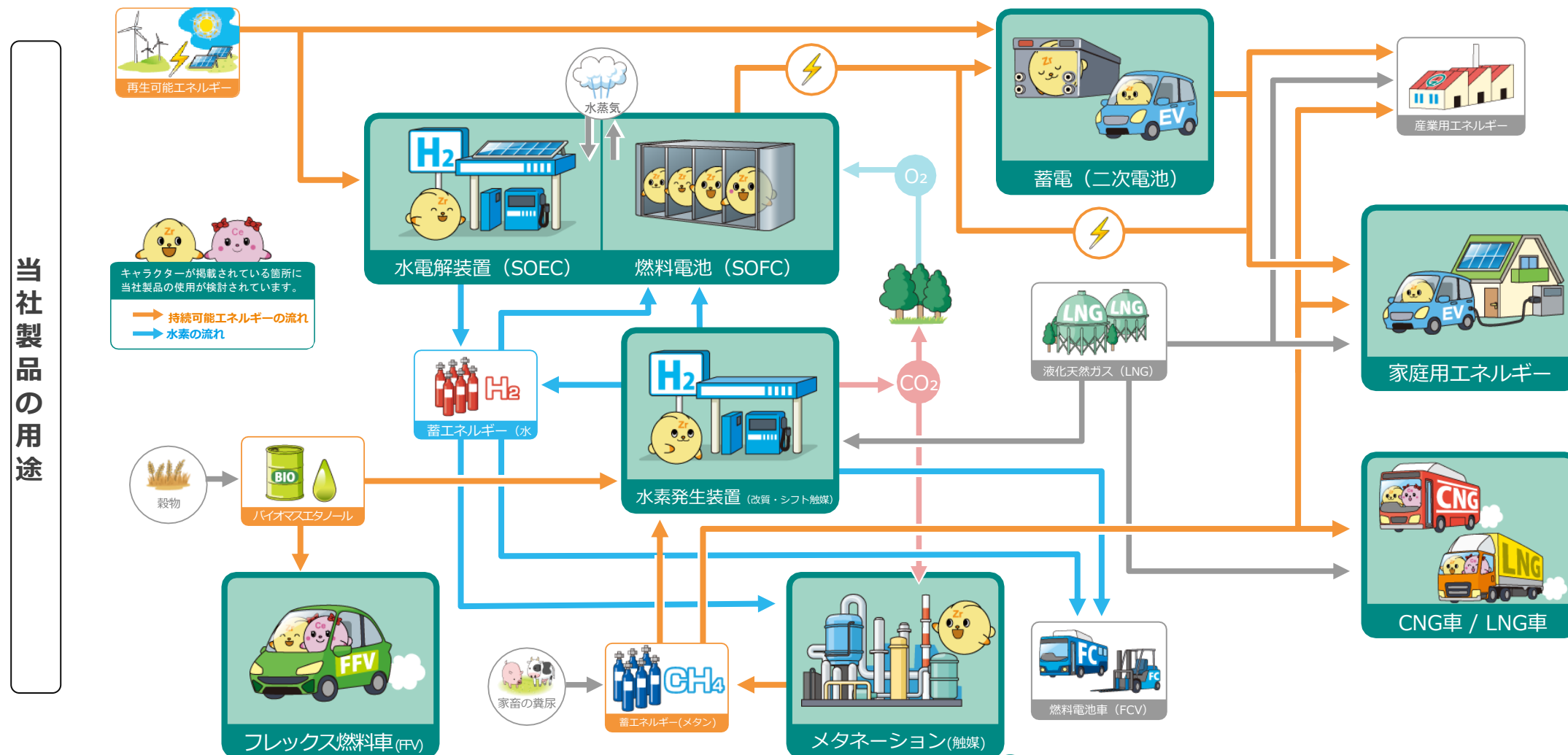


※富士経済「2023年版 次世代パワーデバイス パワエレ関連機器市場の現状と将来展望」を基に当社作成

# エネルギー分野

✓次世代エネルギーのサプライチェーンにおいて、当社製品は様々な用途や工程で活躍

✓次世代エネルギーの重要性は高まっており、今後も当社製品の需要は高まると見込まれる

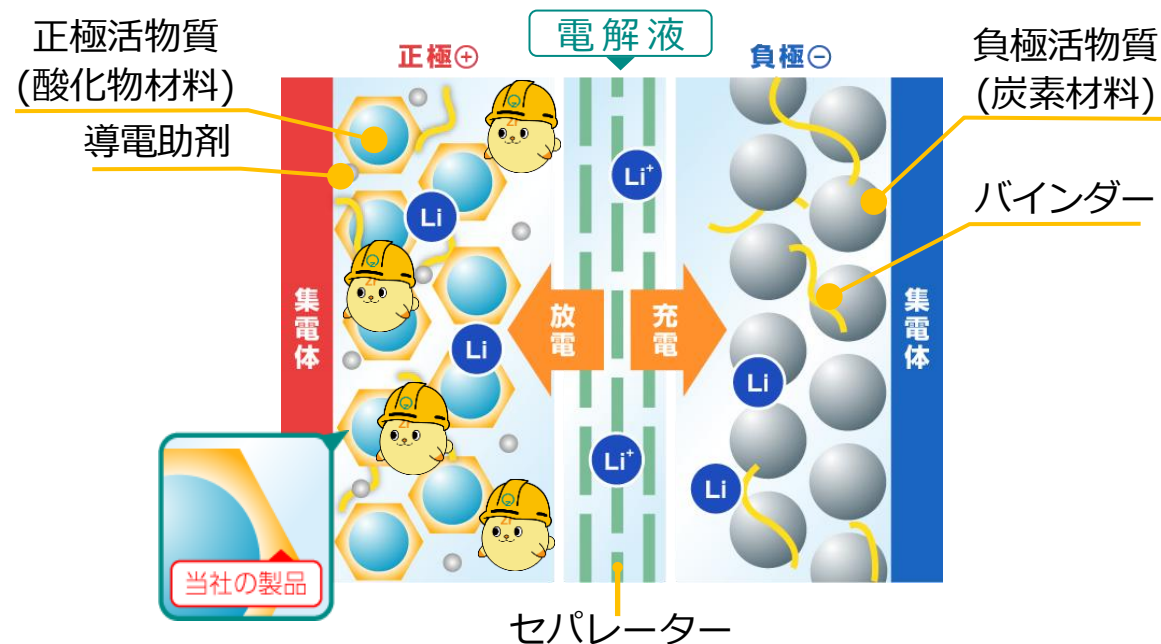


## エネルギー分野：二次電池

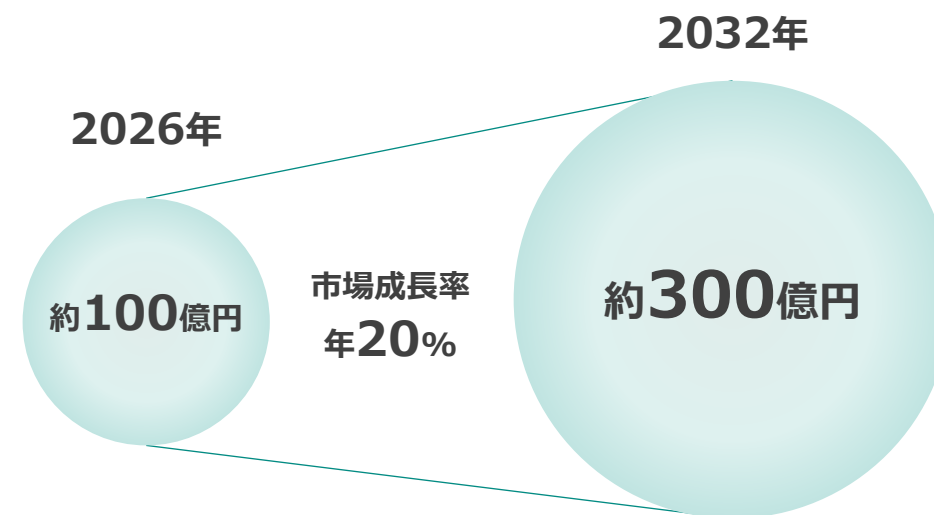
- ✓二次電池は、使い切りの一次電池とは異なり充電することで繰り返し使用できる電池
- ✓電子機器やEVなどに使われており、市場規模の成長率は年20%と今後の成長を見込める分野である

### 二次電池でのジルコニウムの役割

ジルコニウム化合物はリチウムイオン二次電池の正極を保護する役割を担い、電池の安全性・耐久性・出力の向上に貢献する



### 車載用二次電池の市場規模



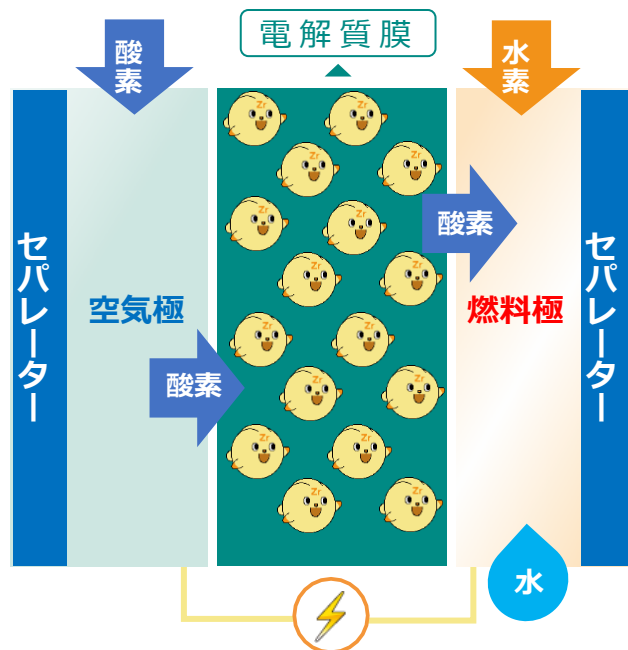
※GlobalData.のデータを基に当社作成

# エネルギー分野：固体酸化物形燃料電池（SOFC）

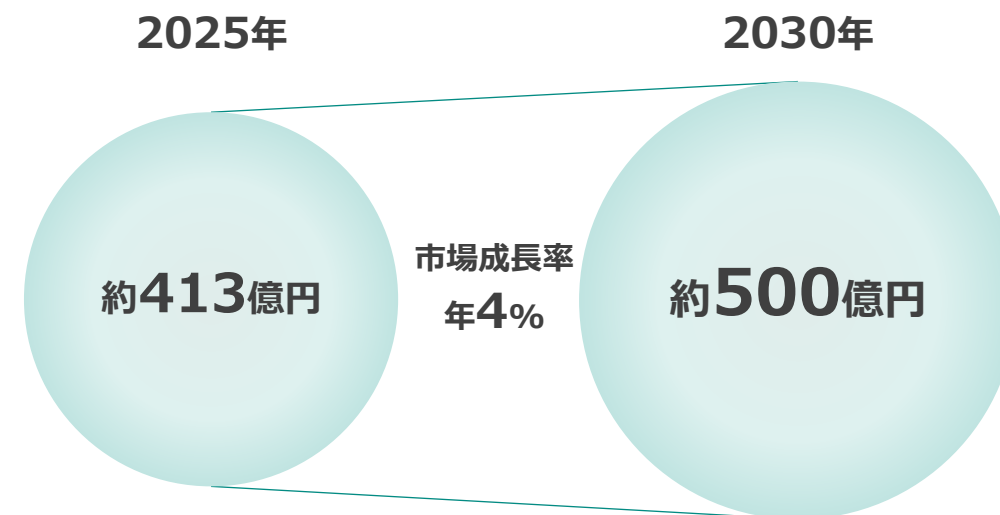
✓固体酸化物形燃料電池（SOFC）は、高い発電効率を誇る燃料電池の一つであり、AIデータセンターの安定電力源として注目を集める

## 固体酸化物形燃料電池（SOFC）でのジルコニウムの役割

SOFCの電解質には主に酸化ジルコニウムが用いられており、当社は電子材料やファインセラミックス材料の研究開発で培った技術を応用し、イオン伝導性が高く成形しやすい電解質材料を提供している



## SOFCシステムの市場規模

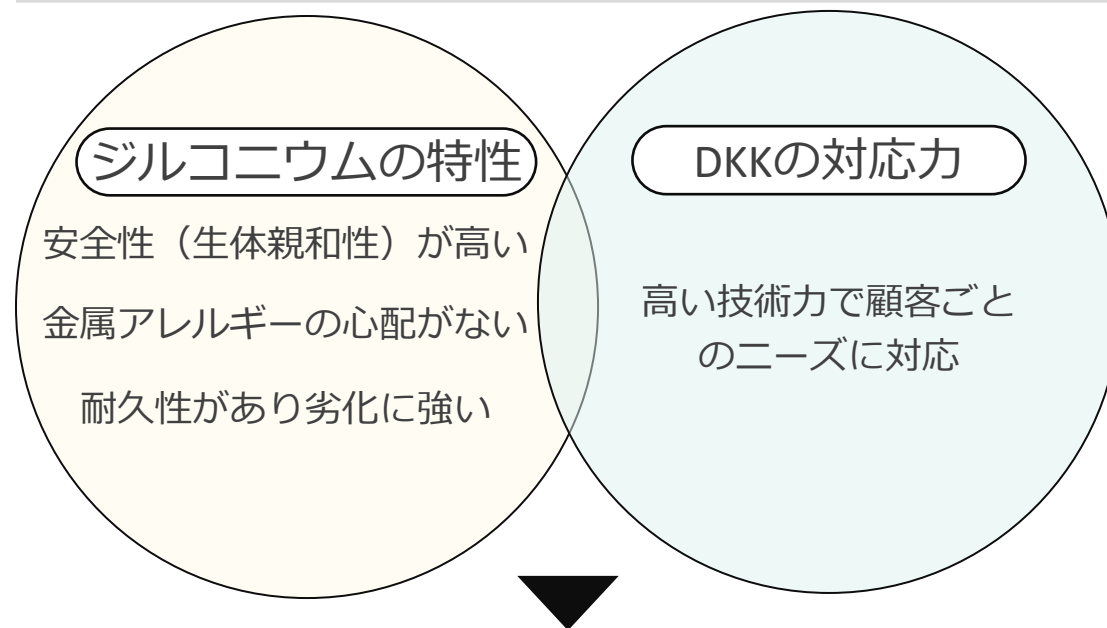


※富士経済「2025年版燃料電池関連技術・市場の将来展望」を基に当社算出

# ヘルスケア分野

- ✓ ジルコニウムは人体に対する安全性が非常に高く、ヘルスケア分野において大きな強みを持つ
- ✓ 市場の拡大が見込まれている生体材料をはじめ、医療機器、抗菌剤など様々な用途で当社製品が用いられている

## ヘルスケア分野で生きるジルコニウムの特性



様々なヘルスケア分野の中でも、「生体材料」の領域で特に活躍



## 当社製品の主な用途



### 生体材料

硬さ、しなやかさ、色調といった特徴を持つジルコニウムが活躍



### 抗菌剤

抗菌剤原料用途や抗菌効果を有する材料を展開  
市場は抗菌から抗ウイルスへと拡大傾向



### 医療機器

医療用機器向けに、蛍光体シンチレータ用途の材料を展開  
※医療機器はジルコニウム以外の材料を使用

# ヘルスケア分野の将来性

- ✓ 審美性に優れたジルコニウムの特性に加えて、耐久性と生体適合性が求められる用途への需要が増加
- ✓ 生体材料の市場規模成長率は年6%程度であり、今後も安定的な成長が見込まれる

## 取り巻く事業環境と機会

### ① 生体材料需要の拡大

高齢化などに伴い、人工関節・歯科インプラントなどの需要が増加。耐久性・生体適合性に優れたジルコニウム化合物の採用が拡大している

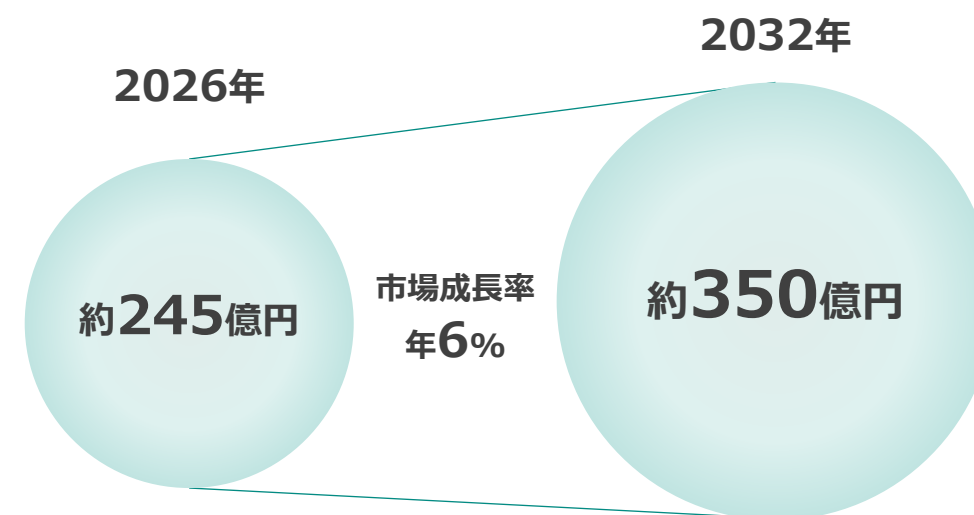
### ② 審美性ニーズの高まり

歯科領域では「自然な見た目」や金属アレルギー回避の観点から、金属に代わるセラミックス材料が選好される傾向が強まる。白色で審美性に優れたジルコニアの需要が伸長

### ③ 生体適合性・安全性規制の強化

医療材料に対する規制・品質要求が高度化し、長期安定性や低毒性が重視される。化学的安定性と生体親和性を持つジルコニウム化合物は適合しやすく、採用が進む見込み

## 生体材料の市場規模



※QYResearch「Global Zirconia Based Dental Material Market Research Report 2025」を基に当社作成

# IV. 業績予想

---

# 連結業績予想

詳細は[こちら](#)から

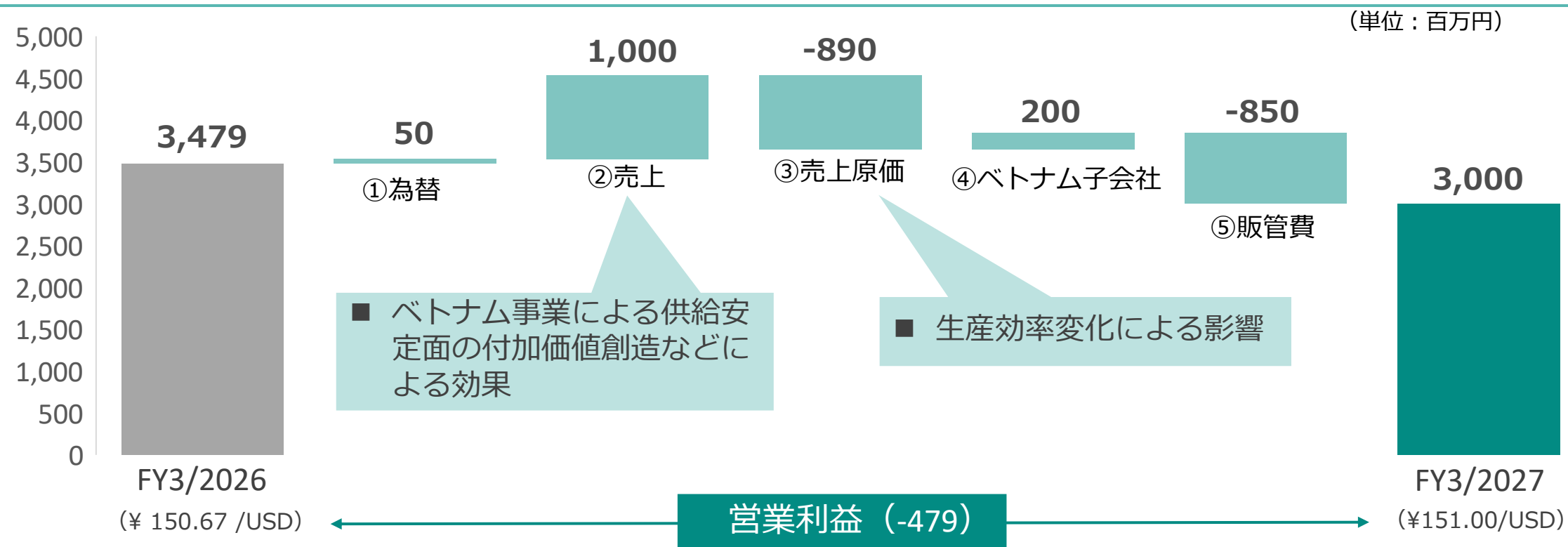


(単位：百万円)

	2027年 3月期 業績予想		2026年 3月期 実績	売上高 比率	前期比
		売上高 比率			
売上高	37,000	100.0%	35,751	100.0%	3.5% ↗
売上総利益	10,700	28.9%	10,333	28.9%	3.6% ↗
営業利益	3,000	8.1%	3,479	9.7%	-13.8% ↘
経常利益	2,000	5.4%	3,255	9.1%	-38.6% ↘
親会社株主帰属純利益	1,500	4.1%	2,514	7.0%	-40.3% ↘
償却前営業利益	6,400	17.3%	6,796	19.0%	-5.8% ↘

- 販売数量は一部需要の低下を背景に減少の見込みである一方で、売上高はハイブリッド車需要の堅調な推移、戦略分野における事業機会拡大の影響を背景として増収予定
- 戦略分野における中長期的な成長を見据えた研究開発費増加、人件費ベースアップ、安定稼働を目的とした保守・修繕費増加等を背景に減益予定
- 為替レートは1米ドル151円で設定しており、外貨建て資産および負債の為替差損を織り込む

# 営業利益増減の要因



① 為替影響	+50	売上 +320	原価 -270
② 売上による影響	+1,000	価格改定による増益効果 +1330	数量効果 -290
③ 売上原価変動の影響	-890	生産量変動および設備修繕費用増加影響 -840	在庫販売の影響 -250
④ ベトナム子会社の影響	+200	損益改善 +450	本格稼働に伴う収益・費用影響 -250
⑤ 販売費および一般管理費	-850	研究開発費 -470	保守修繕 -150 専門家費用 -80 物流費 -60

# V. 株主還元方針

---

# 株主還元

## 配当方針

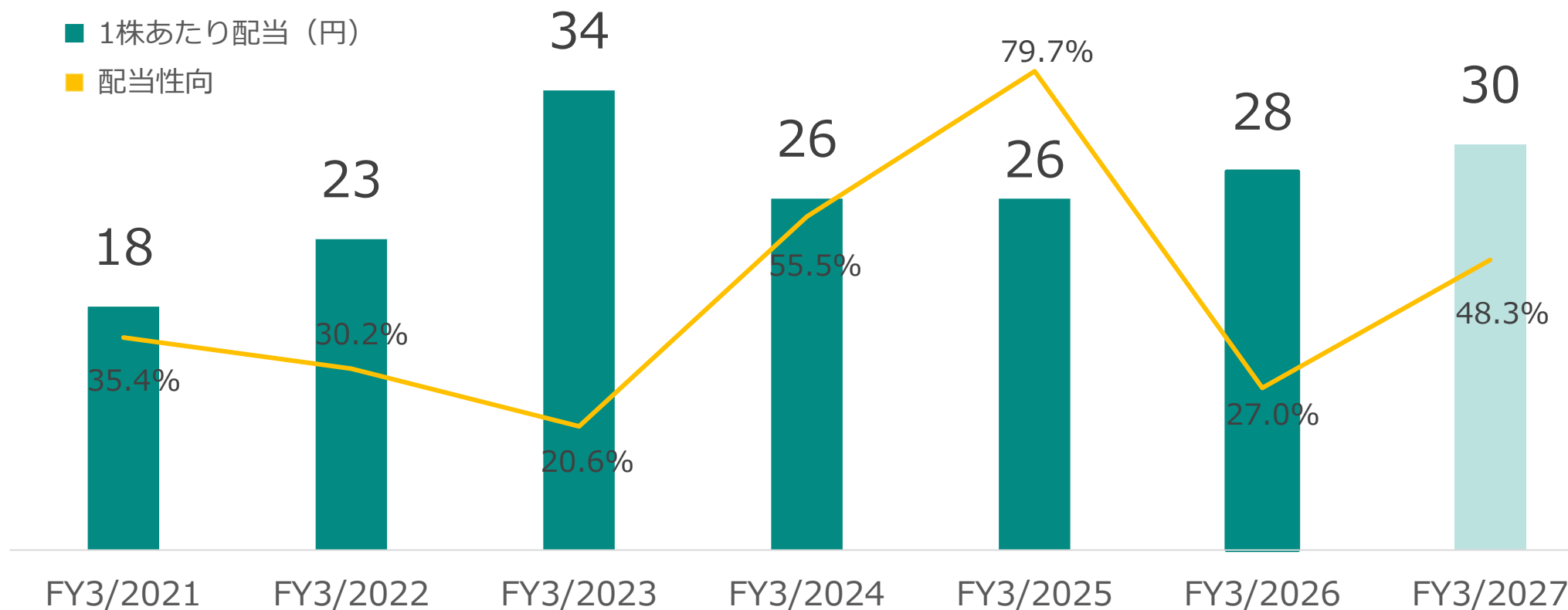
詳細は[こちら](#)から



株主資本配当率（DOE）**1.8%を下限**とし、**配当性向30%**を目標とすることにより、安定的かつ持続可能な配当の実現を目指す。

## 配当金の推移

- 1株あたり配当（円）
- 配当性向





<第一稀元素 マスコットキャラクター>

ジルコくん

## DKKのココに注目！

1

主力製品の世界シェア

40%\*

グローバルニッチトップ企業100選  
認定(経産省)

2

AI、エネルギー、安全保障  
などの注目度の高い

成長領域

でも活躍

3

DOEを採用し

安定配当

を実現

## 本資料に関する注意事項

本資料に記載の業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性を含んでいます。国内外の経済情勢や市場環境の変動など様々な要因により、実際の結果はこれらの予想と大きく異なる可能性があります。したがって、本資料の記載内容の実現を確約するものではありません。



<https://www.dkkk.co.jp/contact/contact.html>

お問い合わせはこちら

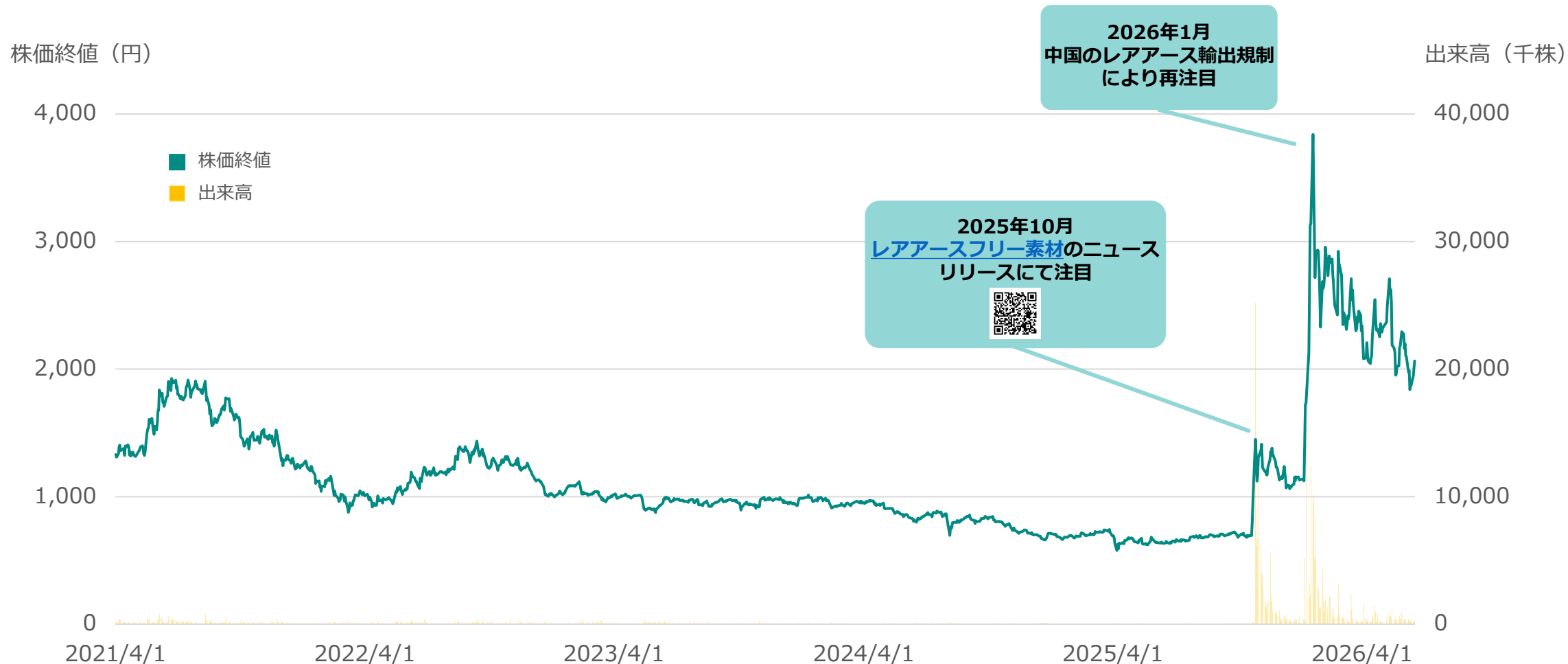
第一稀元素化学工業株式会社  
経営企画部 IR担当

# APPENDIX

---

# 株価の推移 (2021年4月1日～2026年6月17日)

2026年6月17日 終値 : 2,065円 出来高 : 270,500株



# 「ジルコニウム」とは

## 新たな時代を拓く、 夢の素材

ジルコニウムは、原子番号40の元素で、レアメタルの一種です。結合する物質や結晶構造によって、さまざまな特性や機能を発揮します。独自の技術で特性をカスタマイズすることで、より高度化、複雑化する市場のニーズに対応できることが、当社グループの強みです。当社グループの製品が、新しい時代のテクノロジーや新素材を生み出す原動力となることを願っています。



## 最大の特徴「複合化」

- ✓ジルコニウムは単独でも耐熱性、耐薬品性、光学特性を示す
- ✓レアアースをはじめとする他元素と複合化することで様々な機能を発現するため、多岐にわたる市場で活躍
- ✓当社は特定のレアアースを複合化させることで得られていた機能を、レアアース以外の元素との複合化にて同等またはそれ以上の機能を示す材料を開発



# ジルコニウムの特性

- ✓ジルコニウムの特性には未解明な部分も多く、いまだ発展途上の材料
- ✓当社グループでは、ジルコニウムの新たな可能性を追求し、まだ見ぬ新しい用途の開発に注力している

## 単体で発現する特性（黄）



### 耐熱性

融点が高く、高温域でも安定した状態を保ちます。高温の水蒸気にも耐性があります



### 耐薬品性

酸性、アルカリ性にほとんど反応せず、過酷な腐食性環境下に耐性があります



### 光学特性

無色で可視光線の吸収がなく、高い屈折率を有するため、屈折率調整に利用されています



### 機械特性

高強度と高靱性（しなやかさ）を併せ持っています。しなりがあり、破損しにくいことから、セラミックナイフなどに使用されています



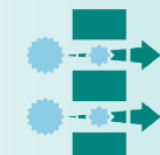
### 電気特性

圧力が加わると電気を発生し、電気が流れると変形します



### イオン電導性

固体でありながら酸素イオンを透過する特性を持っています



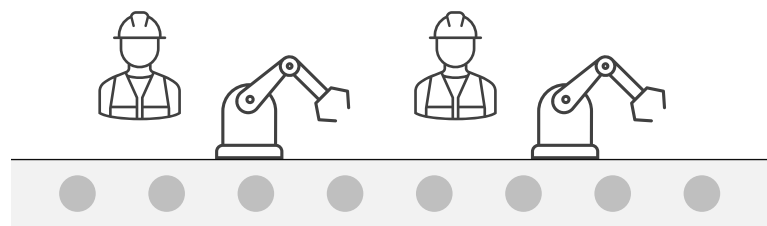
### 触媒特性

酸素の吸放出を行い、他の化学物質が有害物質を浄化する作用を助けます

# 高い研究開発力・生産技術力

- ✓ 当社は、同一生産ラインで複数分野の製品を作り分けられる独自の生産ラインや、高い専門性による検査分析技術を有している
- ✓ これらにより、市場環境の変動に柔軟に対応しながら顧客の要望に細かく応えている

## 独自の生産ライン



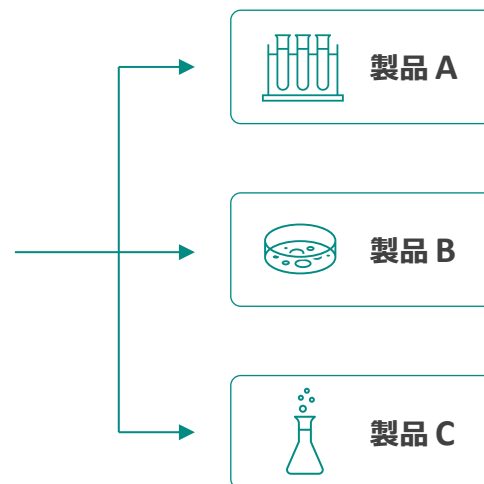
独自の生産ラインと高い生産技術力により、同一製造ラインで**複数分野の製品の作り分けが可能**



大阪府、島根県、福井県の3か所で、それぞれの機能を活かして連携



製造工程は可能な限り自動化され、従業員が安全に働ける環境を整備



# 産官学連携と強固な顧客ネットワーク

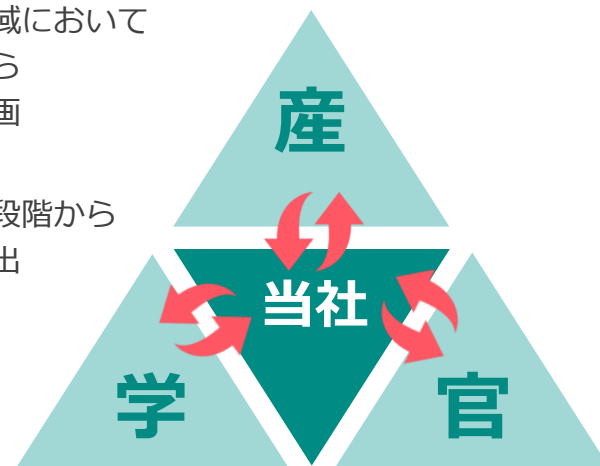
- ✓ 自社単独の研究開発にとどまらず、最先端の顧客企業（産）、国の後押しや政策連携（官）、そして大学・研究機関（学）との強固なネットワークを構築している
- ✓ 世界トップシェアを誇る自動車排ガス浄化触媒分野で築き上げた強固な顧客基盤と信頼関係を活かし、他分野における新たな開発・販売活動を展開・拡大

## 産官学連携

**産** 触媒、電子部品、セラミックスなど、各産業のトップメーカー群との密接な協業・共同開発

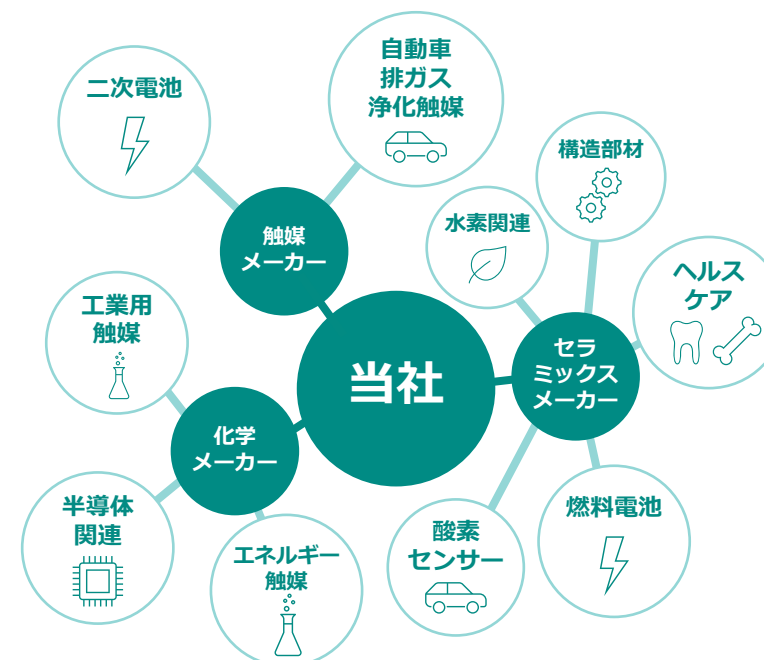
**官** 国策として推進される重要領域において国の後押しや支援を受けながらルールメイクや社会実装に参画

**学** 大学や研究機関と基礎研究の段階から連携し、次世代技術の種を創出



## 顧客ネットワーク

少量多品種生産を通じて培った幅広い顧客基盤を活かし、顧客企業の他事業領域へも当社製品の水平展開を可能にしている



# 自動車排ガス浄化触媒分野

- ✓ 当社製品は、自動車の排気ガスに含まれる有害物質を無害な物質へと変換する浄化部品に採用されている
- ✓ 一酸化炭素や窒素酸化物（NOx）に関する排出規制への対応を通じ、世界各国のクリーンな環境に貢献



## 当社製品のはたらき

### ① 貴金属（触媒）の助触媒に

- 排ガスを無害化する主役であるロジウムなどの貴金属（触媒）が効率的に働くには、適切な酸素濃度が必要  
→ジルコニウム－セリウム複合材料により酸素濃度を最適な状態に保つことで、**触媒の活性化と浄化性能を維持**

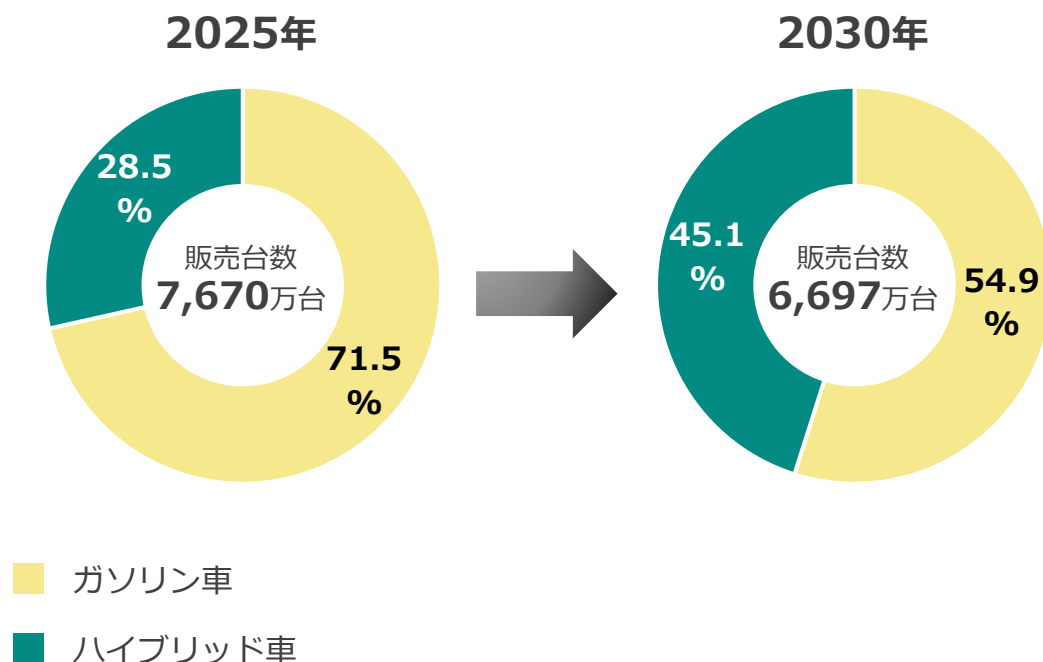
### ② 過酷な熱環境から触媒を守る

- 自動車の排ガス浄化触媒は非常に高温な環境下で使用されるため、貴金属の凝集による触媒の熱劣化が課題  
→優れた耐熱性を有するジルコニウムをセリウムと複合化することで高温環境下においても触媒の劣化を抑制し、長期にわたって高い浄化性能を維持できる**優れた耐久性**を実現

# 自動車排ガス浄化触媒分野の将来性

- ✓2030年には自動車市場における内燃機関搭載車の内、ハイブリッド車の割合が約45%に達すると見込まれている
- ✓自動車市場において電動化が進む一方で、当社製品への需要は、ハイブリッド車の普及拡大に伴いさらに高まると予想される

## 内燃機関搭載車販売の割合



※GlobalData.のデータを基に当社作成



### 営業機会の拡大

グローバルサウスをはじめとする地域での内燃機関搭載車需要成長や日系自動車メーカーが得意とするフルハイブリッド車分野（当社推定の世界シェア70%）において、当社製品の採用機会のさらなる拡大が見込まれる



### 求められる高度な性能

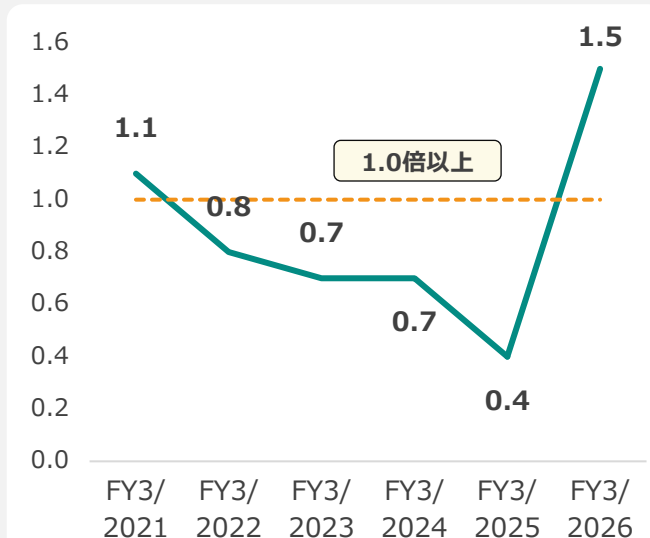
ハイブリッド車における触媒環境は従来の内燃機関車と比較してより過酷であるため、材料に求められる技術要件は一層高度化する。この領域において、当社が長年培ってきた知見と技術力が強固な競争優位性となる

# PBR / ROE / PERの推移

- ✓ 当社のPBRは5年ぶりに1.0倍を超える水準となり、事業の成長性や将来性に対する期待が着実に高まっている
- ✓ ROEは2026年3月期にかけて改善傾向にあり、今後は資本コストを上回る収益力の強化と中長期的な企業価値向上に取り組む

## PBRの推移

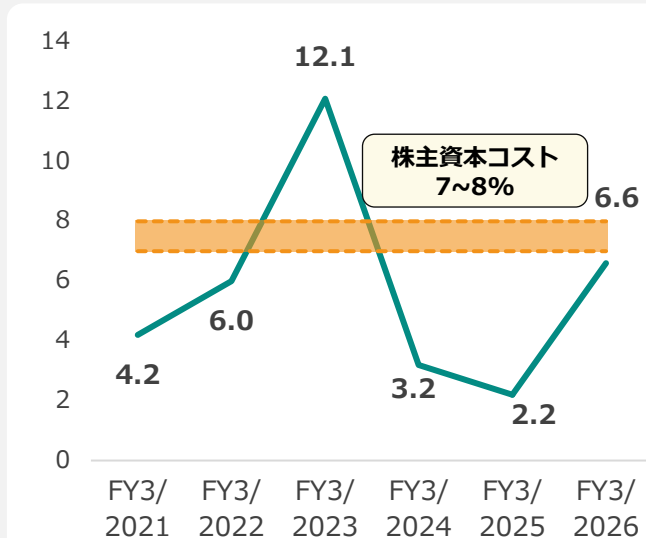
(単位：倍)



2022年3月期以降1倍を下回っていたが、地政学テーマによるレアアース関連銘柄として当社の存在感の高まりを背景に1.0倍以上に回復した

## ROEの推移

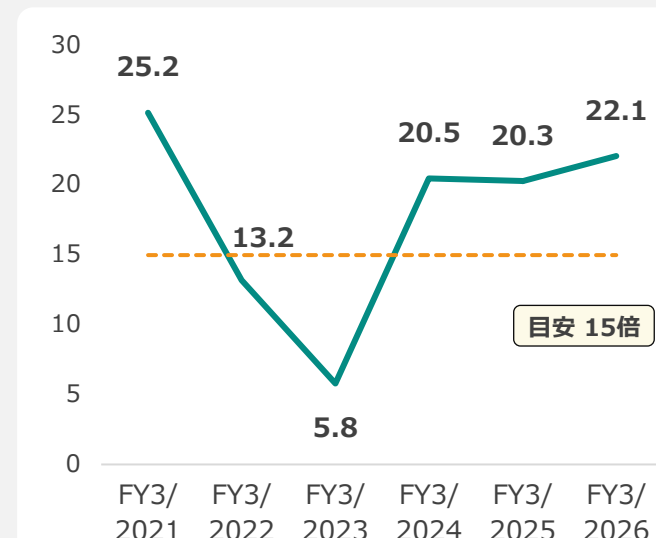
(単位：%)



ROEは株主資本コストを下回る状態が続いており、収益構造の転換が不可欠であると認識

## PERの推移

(単位：倍)



直近のROE改善を受けてPERが上昇しており、市場期待の高まりを裏付けていると解釈。今後は収益成長の加速により、この期待を実績として具現化していくことが重要

# 資本コストの認識

- ✓ CAPMに基づく株主資本コストを7~8%、加重平均資本コスト（WACC）を5~6%程度と認識
- ✓ これらの資本コストを明確な評価軸としたうえで、資本効率の改善を段階的に進め、2032年3月期にはROEおよびROICが資本コストを上回る収益構造を確立する

## 株主資本コスト（CAPMによる算出）

株主資本コストは **7~8%** と認識



ROEの目標値

2032年3月期 **11%**

### 【試算】

5年（日次）推移：1.1  
化学業界平均：1.0  
1.0~1.1

リスクフリーレート

+

$\beta$

×

エクイティリスク  
プレミアム

=

株主資本コスト

日本国債10年利回り

1.5~2.5%

5.0%前後

7~8%

## 加重平均資本コスト(WACC)

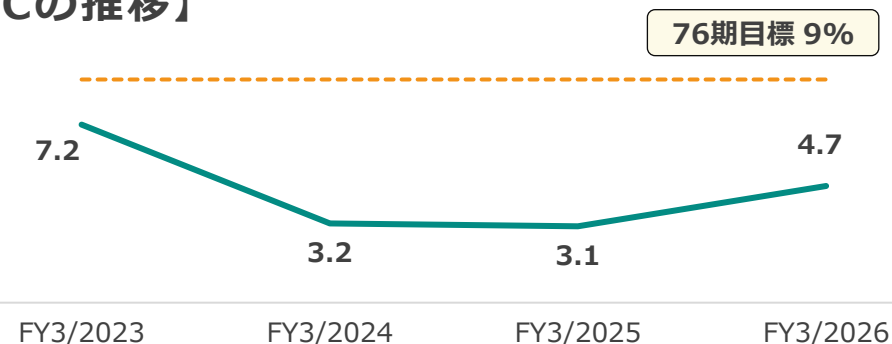
WACCは **5~6%** と認識



ROICの目標値

2032年3月期 **9%**

### 【ROICの推移】



## 2026年3月期（中計前期）の業績と中期・後期目標

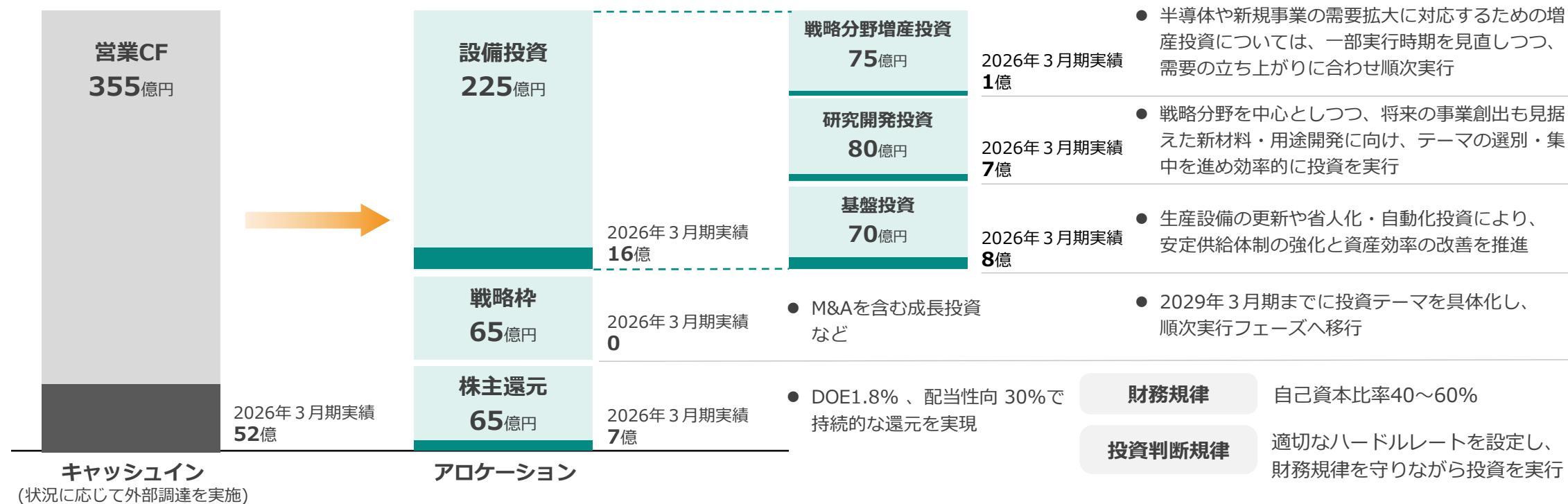
- ✓ 前期最終年度2026年3月期は、外部環境の変化の影響を受けつつも一定の成長を確保したが、戦略分野の立ち上がりの遅れ等が影響し、目標は未達となった
- ✓ こうした中、ベトナム事業については、2025年設定の中期目標よりも早く成果が顕在化しており、2029年3月期への利益貢献を見込む
- ✓ 中期はこれらの進捗を踏まえて目標を更新し、収益性改善とポートフォリオ転換を両立させる重要なフェーズと位置づけ、後期の挑戦と改革につなげる

		2022年3月期 (中計開始前)	2026年3月期		2029年3月期	2032年3月期	
		実績	前期目標 (2022年設定)	実績	中期目標 (2026年更新) ※カッコは2025年設定	後期目標 (2025年設定)	
業績	売上高	294億円	400億円	358億円	<b>410</b> 億円	<b>500</b> 億円以上	
	営業利益	38億円	40億円	35億円	<b>40</b> 億円 (30億円)	<b>75</b> 億円以上	
収益性	EBITDA	64億円	90億円	68億円	<b>75</b> 億円 (70億円)	<b>105</b> 億円以上	
指標	資本効率	ROIC	6.2%	6.0%	4.7%	<b>5%</b> (4%)	<b>9%</b> 以上
	ROE	6.0%	—	6.6%	<b>6%</b> (5%)	<b>11%</b> 以上	
配当	DOE	—	—	1.9%	<b>1.8%</b> 以上	<b>1.8%</b> 以上	
	配当性向	30.2%	30%	27.0%	<b>30%</b>	<b>30%</b>	

# キャッシュ・アロケーション

- ✓ 前期最終年度である2026年3月期においては、概ね計画どおりに進捗した
- ✓ 中期以降は、具体化した案件に基づき投資を段階的に実行し、資本効率を意識したアロケーションを推進する

## 2026年3月期～2032年3月期のキャッシュ・アロケーション

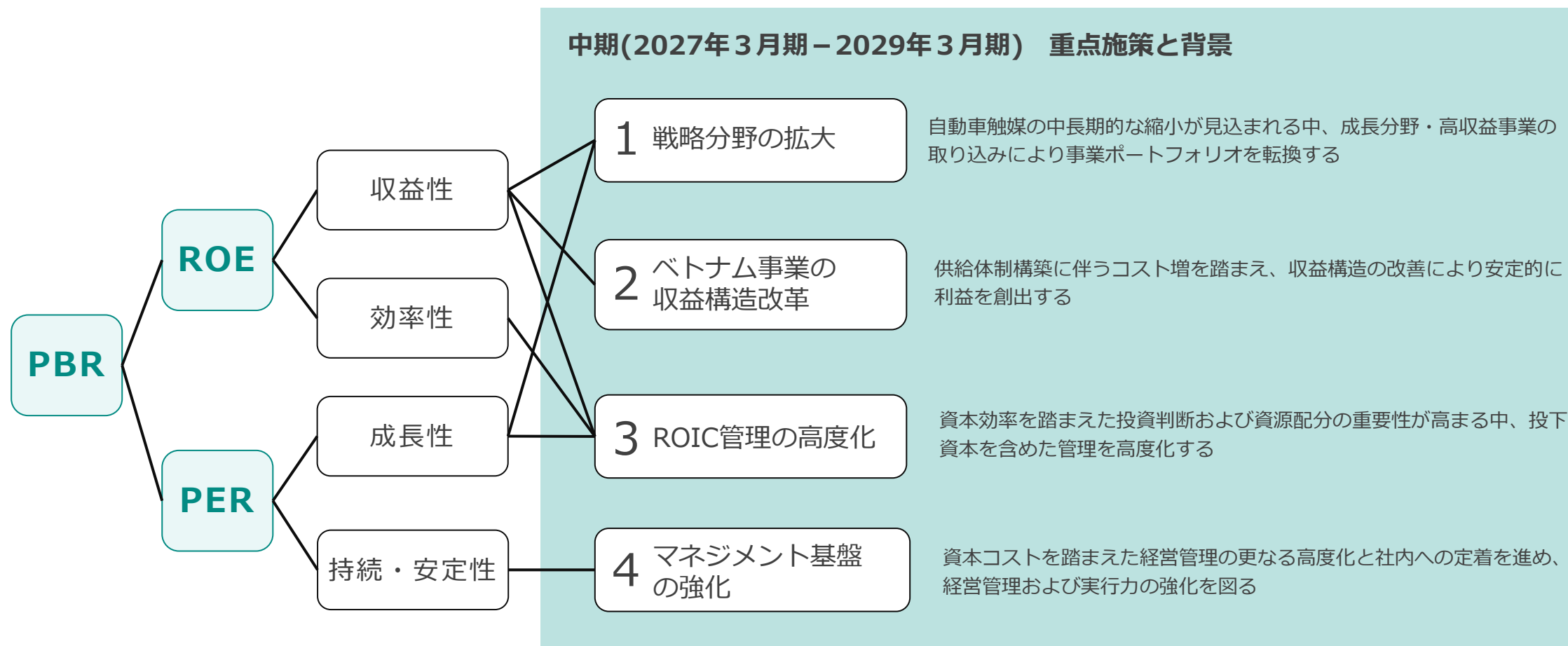


### 投資計画との期間のズレについて

キャッシュ・アロケーション計画については、中期経営計画「DK-One Next」前期の期間中である2025年3月期末時点で新たに策定・開示を行いました。そのため計画期間が2026年3月期から2032年3月期までとなっており、中期経営計画初年度から設定している投資計画とは期間のズレが生じています。

# 企業価値向上に向けた重点施策

- ✓ マテリアリティとして掲げる6つの柱およびポートフォリオ転換の進捗状況を踏まえ、PBR分解の観点から企業価値向上に向けた中期における重点施策を整理

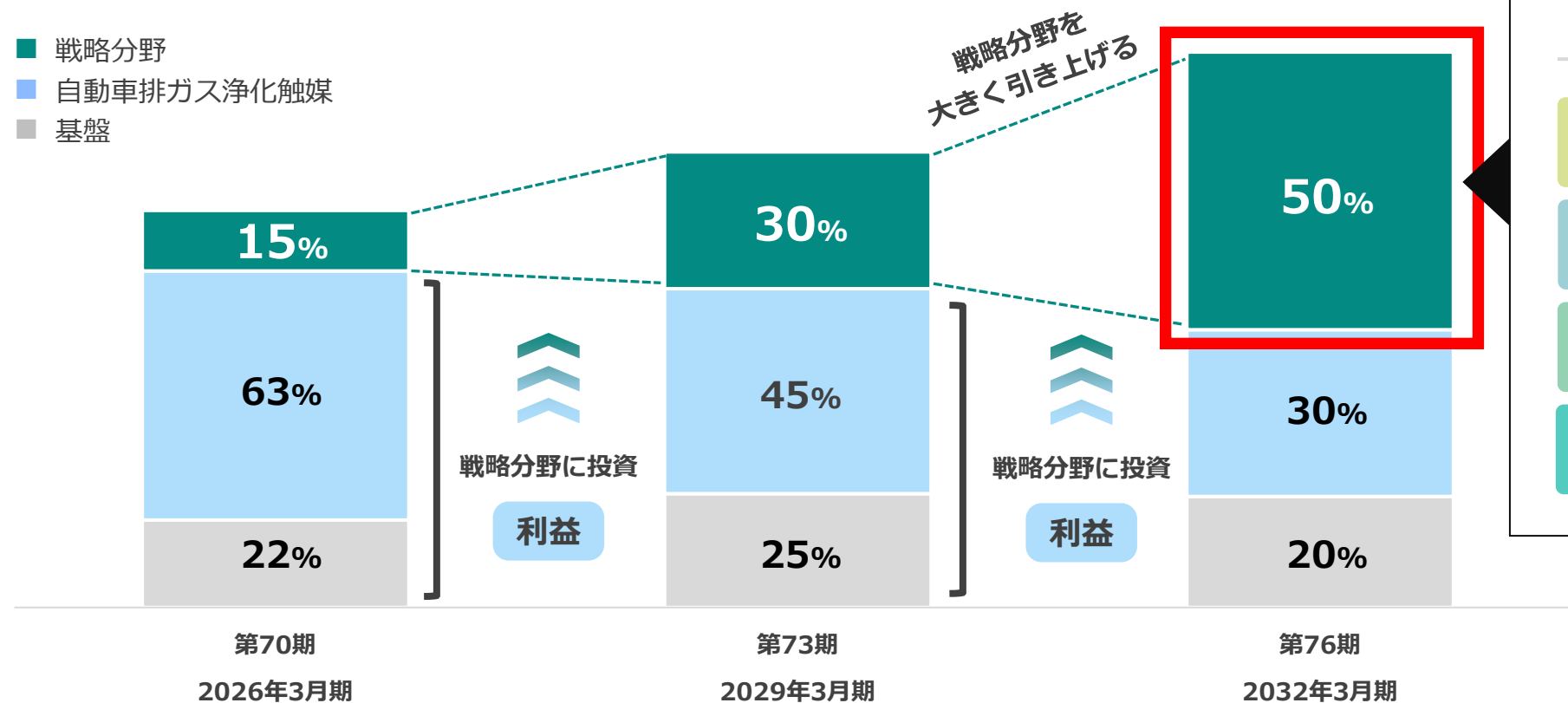


# 成長戦略と収益基盤の両立によるポートフォリオ転換

✓自動車排ガス浄化触媒と基盤分野で得られた利益を、成長と収益性が期待できる戦略分野（主に新規事業、半導体、二次電池、生体材料）に投資し、構成比を50%以上に引き上げる

## 売上高構成比 (%)

- 戦略分野
- 自動車排ガス浄化触媒
- 基盤



## 戦略分野

新規事業

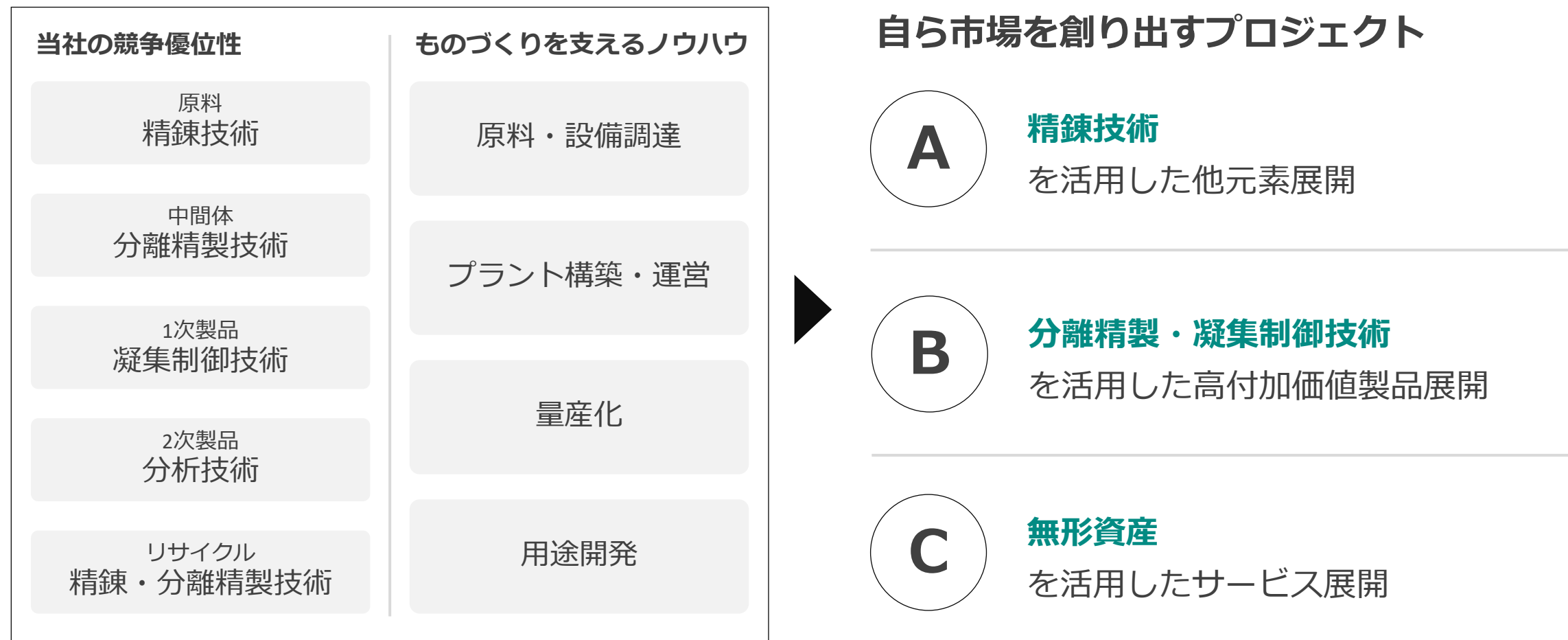
半導体・エレクトロニクス  
(半導体研磨材等)

エネルギー  
(二次電池等)

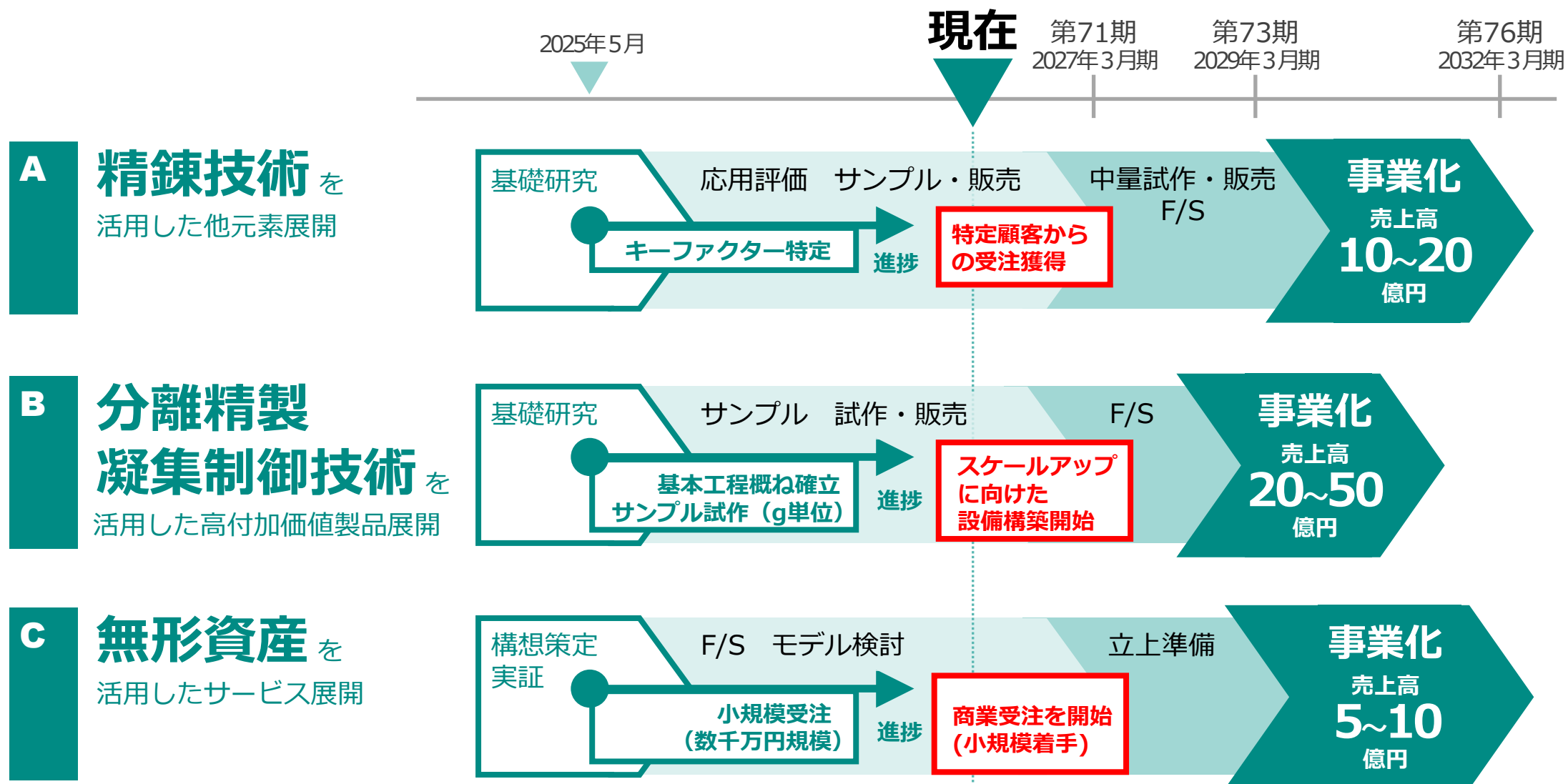
ヘルスケア  
(生体材料等)

# 新規事業 成長戦略

✓創業 70 年で積み上げたものづくりの技術とノウハウを活用することで、自ら市場を創り出すプロジェクトに取り組む



# 新規事業による市場の創出 - 具体的な取り組み -



# 直近の技術開発トピックス

- ✓ジルコニウムはレアアースをはじめとする他元素と複合化することで様々な機能を発現
- ✓当社は特定のレアアースを複合化させることで得られていた機能を、レアアース以外の元素との複合化にて同等またはそれ以上の機能を示す材料を開発

## ジルコニウム



- 耐熱性
- 耐薬品性
- 光学特性



## 他元素

セリウム



## 新機能の発現

酸素貯蔵能

## 用途

自動車排ガス浄化触媒

イットリウム



高強度・高靱性・透光性

構造部材、歯科用材料



## DURAZR®-Sシリーズ

材料そのものの「脱・レアアース」を実現した  
DKKのレアアースフリージルコニウム材料

イットリウム  
(レアアース)

カルシウム

構造部材、ヘルスケア用途に一般的に  
使用されるが、レアアースは価格変動  
が激しく調達リスクも高い

汎用的な元素を用いて、同等またはそ  
れ以上の機能を示す材料を開発

### 機能性素材

### コスト安定性

ジルコニウム × カルシウム安定化ジルコニア (Ca-SZ)

レアアースフリー	産出国が限定されるレアアースを含まない
高靱性が約3倍	構造体の小型化・薄膜化に貢献 (HSY®-0480)
高い透光性	審美性に優れる (HSY®-0774)
水熱劣化耐性が向上	使用環境下の熱水や熱による劣化が進みにくい
CO2排出量の低減	従来品より約200℃低い温度での焼結を実現

※当社はレアアースを用いた高機能材料も扱っています  
※本取り組みはすべての用途でレアアースを不要にするものではありません